

上越ケーブルビジョン

令和2年度 第2回 JCV 放送番組審議会議事録

日時：令和3年3月15日（月）13:00～14:00

場所：JCV2F 会議室

出席者 審議委員表記順：会長、副会長、委員（五十音順）

○直原 幹 会長 ○横山 裕孝 副会長 ○大橋 愛 委員

○小林 隆浩 委員 ○関原 英里子 委員

欠席 ○松野 千恵 委員

（上越ケーブルビジョン）

○メディアセンター 部長 福嶋良章

○メディアセンター 放送制作課・ウェブ事業課 課長 佐藤康司

○メディアセンター 放送制作課 課長 沢田真紀

1、開会

2、挨拶 上越ケーブルビジョン メディアセンター部長 福嶋良章

3、放送番組審議会進行内容説明

4、会長 ご挨拶

5、議事

(1) 特別番組 大雪のニュースについて

<事務局から説明>

■「ニュース LiNK」で連日放送

今冬の災害級の大雪における情報発信の取り組みについて

1月7.8日頃から本格的な大雪となったが、三連休を挟むため

どこまで情報を伝えられるかチーム一丸となって情報を集めた。

気象会社との連携をとりながらも、どれくらいまで降るのか、いつまで続くのか不安の中で作業を進めていた。

現状だけでなく、課題についても振り返りながら伝えた。

一番関心が高かったのは、降雪量について。

ネットのアクセス状況からもそれがうかがえた。

連日大雪情報とともに、生活情報も伝え続けた。

ごみの収集もストップした。番組では再開したところの様子なども紹介した。

併せて、スーパーの品薄、ガソリンスタンドでのガソリン・灯油不足などの状況を伝えた。

除雪に関しては相当の苦情が市に寄せられた。除雪現場の現状と除雪に携わる業

者の声をまとめて伝えた。毎日が雪の話題となったが、市民の関心が寄せられているのは雪のため取材を続けたが、記者の車が止められない状況だった。ドライバーと記者の二人体制で取材に望んだ。何を伝えなければならないか、何が求められているのか、そのような課題も吸い出しながら放送に盛り込んでいた。

○1月8日（金）三連休前のニュース

○ごみ収集再開時の様子と順次再開されるごみ収集の予定について

○その他生活情報（スーパー、ガソリンスタンド）

○除雪状況と業者などの現状に関する話題

○大雪から一ヶ月の振り返り

※主に道路、他に農業被害なども現場から現状を伝えた。

<意見・感想>

直原) 大雪の時は機材があるから車でなければいけない？

佐藤) 本当に道が狭く止められない。スタッフがスタックして邪魔になってはいけないため気を付けながら二人体制で出かけた

(2) 緊急放送 大雪に関する生放送

<事務局から説明>

■1月11日（月・祝）12時～2時間生放送

FMみょうこうとの同時緊急生放送

ライブカメラと除雪作業中のスタッフから集めた映像や画像を使って、今、上越市内はどうなっているのか、大雪の現状を伝えた。日直が急遽撮影した空家倒壊の話題も伝えた。大雪により交通がマヒしている中、歩いて出勤できるスタッフで対応していた。今後の災害時の対応、体制についても考えるきっかけになった。

直原) 自分が赴任した35年前がちょうど大雪だった。出たは良いけど帰れない状況。

横山) 民放テレビ局などでは、大雪の影響でスタッフが出勤できない中で、市民の方がスマホ等で撮影した情報を提供したりしている。JCVではそのような取り組みは？

佐藤) まさに、今の課題。部内でも、ツイッター等のSNSをチェックできるが、民放のように気軽に動画を投稿出来る窓口が整っていない。今後は市民型の情報を活用できるよう早急に整備していかなければいけない。特に民放では、火事等はほとんどが市民からの投稿動画。

直原) 普通の長靴で歩く事の危険性なども思い出した、そのような中で、こちらからの情報は特に役に立った。今までにないありがたみを感じた。大雪の一週間後、大学入学共通テストだった。一秒でもずらすわけにはいかない中、正確な交通情報が入らず不安だっ

た。大学前の細い道の除雪が出来ていなかったが、テストの前日に除雪が入った。その様子をライブで紹介し、高校生の保護者にご覧いただければ安心できたのかと思う。

福嶋) 大雪時も全国ニュースはコロナ一色。地域に住んでいる社員が、地域の日線で雪の情報取材する事ができ、一定の役割は担えたと思う。

大橋) 大雪の時は子育て広場もクローズした。親が除雪に出られない、子どもがいると雪の中を歩いての外出は危険。子育て家庭は家の中に缶詰状態だった。そのような状況の中で、JCV のライブカメラの映像にすごく救われたという声が多かった。カメラの順番を子供が覚えたという話も。一方で除雪作業などを通じて近所の人々の顔を見る機会になり、子供は地域と繋がって良かった。一緒に除雪をするなど、地域的に助け合う機会となった。

(3) その他

<事務局から>

■123ch の運用について

沢田) 現在、上越妙高タウン情報を放送している 123ch の運用について、新企画を提案。コロナ禍で特に屋内競技が入場制限を設けて開催。保護者に代わって試合の様子を撮影し放送する企画。昨年末、U12 バasketボール地区大会の 14 試合を撮影した。1 試合 1 人のスタッフが対応することで、2 人体制で 2 コートの試合を同時に撮影することが可能。

横山) 保護者が学校行事などの催し物に行けないから撮影してほしいとの要望を聞いた。主催団体にとってもありがたい取り組みだと思う。

<任期 2 年間で振り返り感想>

小林) 地域密着を本当に感じた。大雪は人災とも言われる中、大雪の状況だけでなく、課題もしっかりと出していたのが素晴らしい。半年たてば忘れてしまうので、記憶を風化させないように、発信を続けてほしい。

大橋) 今後、秋頃までは雪の心配はないが、コロナ禍は続く。子供センターでは、コロナ対応としてオンラインでの相談等に応じている。そのようなオンラインの取り組みも知りたい。関原委員が行ったセミナーでは、マスクをしている時のメイクの仕方等も紹介されていた。希望が持てる、少しでも明るくなるような話題を観たい。

関原) 地域に密着している JCV。災害時は特に、CATV・FM は地域の味方。チャレンジキッズはとても良い取り組み。卒業式や入学式では、出席者が 1 人に限られると、見ながら撮るのは難しい。スポンサーを募ってはどうか？企業も応援してくれるのでは？

直原) 親御さんは式典での晴れ姿、ご子息の姿が観たい。コンサート、ダンスの発表会も現状では無観客が主流。ライブ配信の取り組みはあるが、若者と違い、保護者関係はYoutube までたどり着けない。式典はどこも同じ日に行われるため、人手が足りなくなると思うが・・・。

この2年間、大きな地震があった。私は3.11の時も宮城にいた。天変地異があった時こそ、メディアは休めない仕事。極端な事が集中的に起こる時代において、頼りになるのが報道・ニュース情報。今後も、地域のために頑張ってもらいたい。

5、閉会

議事録署名人 直原 幹



議事録作成人 上越ケーブルビジョン 沢田真紀

